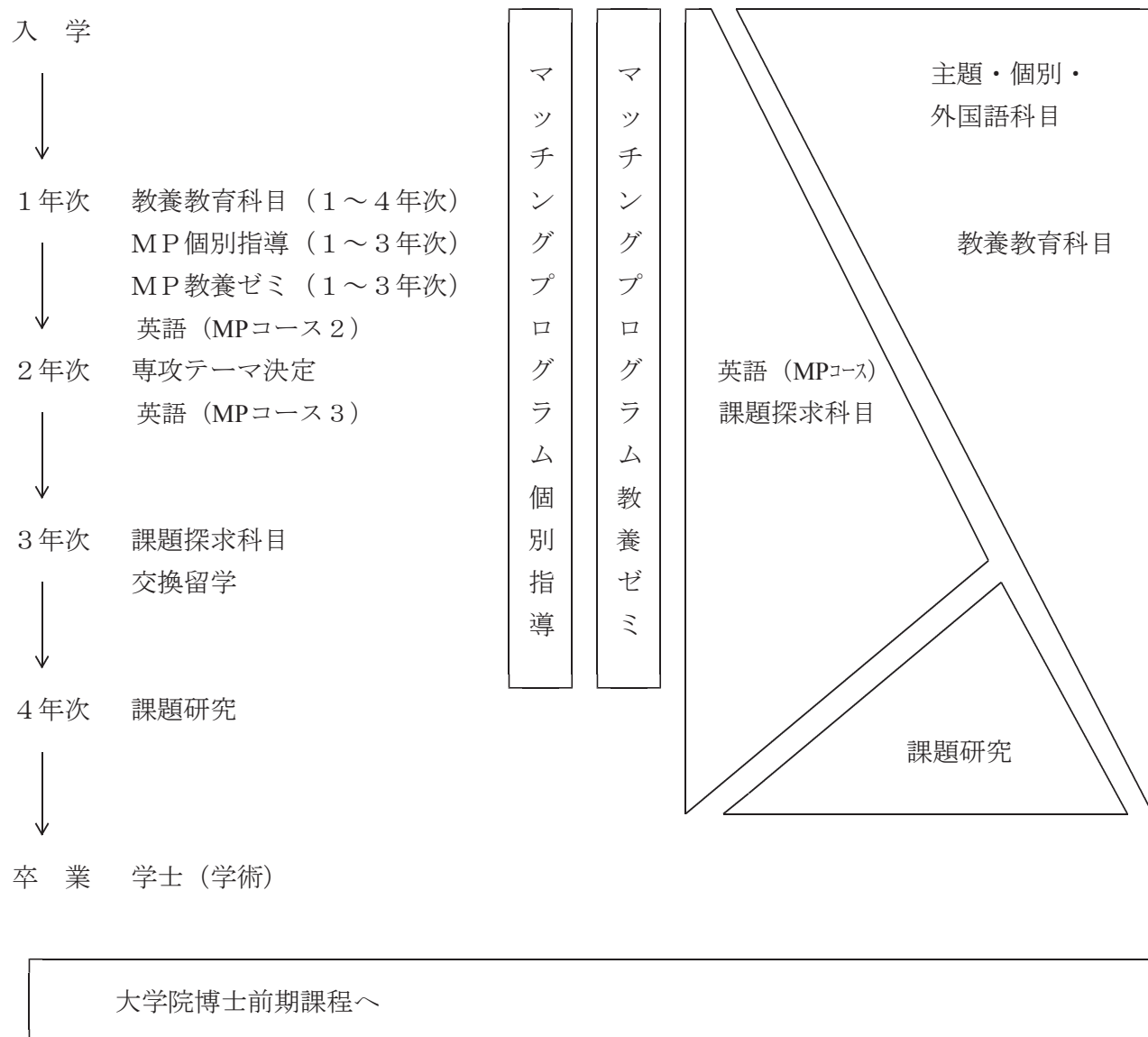


### 3. マッチングプログラムコース履修のしくみ

このプログラムは、理学部を責任学部として運営されますが、本学の持つ全ての教育資源を最大限に活用する新しい教育課程です。その教育は、個別指導と少人数制を基本としています。

履修の制限が付くこともありますが、全ての学部は、その開講科目をMPコースの学生が履修することを原則的に認めることになっています。



#### 4. マッチングプログラムコース履修科目区分表

区分	授業科目区分	卒業要件単位数		授業科目	履修年次										
					1年次		2年次		3年次		4年次				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
教養教育科目	ガイダンス科目	2		自然科学入門(MPコース)	②										
	主題科目	現代の課題	2以上			○	○	○	○	○	○	○	○		
		人間と社会	2以上			○	○	○	○	○	○	○	○		
		健やかに生きる	2以上			○	○	○	○	○	○	○	○		
		自然と技術	2以上			○	○	○	○	○	○	○	○		
	個別科目	人文・社会科学	4 (スポーツ2単位以上)		人文・社会科学系科目	○	○	○	○	○	○	○	○		
		自然科学			自然科学系科目	○	○	○	○	○	○	○	○		
		生命・保健科学			健康・スポーツ科学	○	○	○	○	○	○	○	○		
		情報科学			スポーツ実習(A,B,C,D,E,F)	○	○	○	○	○	○	○	○		
	外国語科目	英語	16以上 (指定する英語12単位を含む)		英語 (MPコース)	②									
					英語 (ネイティブ)		②								
		英語上級			英語 (オラコン)			○	○						
					英語 (作文・文法)			○	○						
					英語 (読解)			○	○						
					英語 (検定)			○	○						
					プレ上級英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
					上級英語					○	○	○	○	○	○
		ドイツ語			英語特別演習1					○	○	○	○	○	○
英語特別演習2									○	○	○	○	○	○	
ドイツ語初級					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ドイツ語中級									○	○	○	○	○	○	
フランス語初級					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語中級									○	○	○	○	○	○	
中国語初級	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				
中国語中級						○	○	○	○	○	○				
韓国語	韓国語初級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	韓国語中級					○	○	○	○	○	○				
	ロシア語初・中級														
	スペイン語初・中級														
イタリア語初・中級															
合計		30～44													
専門教育科目	MP教育科目 (必修科目)	6  4  10 (自然科学は4単位, 他は各2単位履修)		20	MP個別指導1	②									
					MP個別指導2		①	①							
					MP個別指導3				①	①					
					英語 (MPコース2)	②									
	英語 (MPコース3)		②												
	MP教育科目 (選択科目)	0～2		0～2	MP教養ゼミ(日本語)	○	○	○	○	○	○	○			
					MP教養ゼミ(倫理・哲学)	○	○	○	○	○	○	○			
	総合選択履修科目	4  0～18		4～22	MP教養ゼミ(異文化)	○	○	○	○	○	○	○			
					MP教養ゼミ(自然科学)	○	○	○	○	○	○	○			
					キャリア育成セミナー		○		○						
課題科目	46  10		56	情報処理関連科目 (設置学部が開講する専門教育科目の情報関連科目)					4						
				テーマ関連科目 (各学部が開講する専門教育科目)					0～18						
合計	84～98			課題探求科目 (各学部が開講する専門教育科目)					46						
				課題研究								⑩			
総合計		128													

※ ○の位置は履修可能時期(セメスター)を, 中の数字は単位数を示します。 例. ②=2単位

## 5. マッチングプログラムコース履修細目

※ この細目中で「単位以内」とあるのは、卒業要件単位数に含めることのできる単位数の上限を示す。  
(この単位数以上の単位を取得しても、卒業要件単位とはならないので注意すること。)

- 1 **教養教育科目は、卒業要件として1) から5) に従い、30単位以上44単位以下を修得する。**
  - 1) ガイダンス科目2単位は必修とする。
  - 2) 主題科目 …… 8単位以上を修得する。ただし、4つの主題グループのそれぞれから1授業科目は、修得しなければならない。
  - 3) 個別科目 (生命・保健科学)  
…… 4単位以内を修得する。このうちスポーツ実習A, B, C, D, E, Fのいずれかから2単位以上を修得しなければならない。
  - 4) 外国語科目は、指定された英語12単位以内と初修外国語又は上級英語4単位を含む16単位以上を修得することとし、3年次前期と後期に上級英語を履修すること。
  - 5) 外部検定試験等の結果により単位を認定する。  
(別表1「外部検定試験等による単位認定について」参照)
  
- 2 **専門教育科目は、卒業要件として1) ~3) に従い、84単位以上98単位以下を修得する。**
  - 1) 専門基礎科目は、20単位以上を修得する。
  - 2) 専門科目の総合選択履修科目は、4単位以上22単位以下(情報処理関連科目4単位を含む。)を修得する。
  - 3) 専門科目の課題科目は、56単位(課題研究10単位を含む。)を修得する。
  
- 3 **MP教育科目**  
必修科目については、指定されたクラスで履修する。
  
- 4 **総合選択履修科目**
  - 1) 情報処理関連科目は、設置学部が開講する専門教育科目の情報関連科目4単位以内を修得する。
  - 2) テーマ関連科目は、各学部の専門教育科目から18単位以内を修得する。
  
- 5 **課題科目**  
課題探求科目は、各学部の専門教育科目から46単位以内を修得する。
  
- 6 **履修科目の登録単位数の上限設定**
  - 1) 履修科目として登録できる単位数の上限は、1年間42単位とする。
  - 2) MPコース教育部長が教育上特別の必要があると認めた場合は、42単位を超えて履修科目を登録できる。
  
- 7 **課題研究の履修条件**  
3年次後期終了時でMPコースの卒業要件単位128単位のうち、修得単位が100単位以上の者。
  
- 8 **副専攻コースの履修について**  
副専攻コースは、MPコースで学習した知識を、さらに広い視野で有効に活かすことのできる能力を養ってもらうために別の教育課程として設けたもので、全23コースがある。  
MPコースの学生は、英語コース、ドイツ語コース及びフランス語コースに限り履修できる。  
履修対象者は、単位修得状況が良好、成績優秀で副専攻コースの履修が可能と認められた者である。  
また、副専攻コースとしての履修により修得した単位は、副専攻修了の有無にかかわらず卒業要件単位にはならない。従って、履修科目の上限設定(1年間に履修可能な42単位)の対象外となる。

## 別表第1の1 (平成24年度以降入学者適用)

## 外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
英語	【英語関係Ⅰ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	500～645点 (OT3)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 2単位
		650～795点 (OT2)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 4単位
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	準1級	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 4単位
		B級	
		500点以上	
		173点以上	
【英語関係Ⅱ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	800点以上 (OT1)	英語 (ネイティブ) 2単位 及び 別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 4単位	
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	1級	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 8単位
A級			
550点以上			
213点以上			
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	5級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) 又は ドイツ語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) ドイツ語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) ドイツ語初級Ⅰ (総合) ドイツ語初級Ⅱ (総合) ドイツ語中級 } 8単位
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ (文法) 又は フランス語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) フランス語初級Ⅱ (総合) フランス語中級 } 8単位

別表第1の2（平成24年度以降入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
中国語	漢語水平考試 (HSK) (筆記試験のみ)	1級	中国語初級Ⅰ (文法) 又は 中国語初級Ⅰ (読本) 2単位
		2級	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本) 中国語初級Ⅱ (文法) 中国語初級Ⅱ (読本) } 4単位
		3級以上	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本) 中国語初級Ⅱ (文法) 中国語初級Ⅱ (読本) 中国語中級 } 8単位
韓国語	韓国語能力試験	1級	韓国語初級Ⅰ (文法) 韓国語初級Ⅰ (読本) 韓国語初級Ⅱ (文法) 韓国語初級Ⅱ (読本) 韓国語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		2級以上	韓国語初級Ⅰ (文法) 韓国語初級Ⅰ (読本) 韓国語初級Ⅱ (文法) 韓国語初級Ⅱ (読本) 韓国語初級Ⅰ (総合) 韓国語初級Ⅱ (総合) 韓国語中級 } 8単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ (文法) 又は スペイン語初級Ⅰ (読本) 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ (文法) スペイン語初級Ⅰ (読本) スペイン語初級Ⅱ (文法) スペイン語初級Ⅱ (読本) } 4単位
		4級以上	スペイン語初級Ⅰ (文法) スペイン語初級Ⅰ (読本) スペイン語初級Ⅱ (文法) スペイン語初級Ⅱ (読本) スペイン語中級 } 8単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ (文法) 又は イタリア語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ (文法) イタリア語初級Ⅰ (読本) イタリア語初級Ⅱ (文法) イタリア語初級Ⅱ (読本) } 4単位
		3級以上	イタリア語初級Ⅰ (文法) イタリア語初級Ⅰ (読本) イタリア語初級Ⅱ (文法) イタリア語初級Ⅱ (読本) イタリア語中級 } 8単位

- 備考 1 成績の取り扱いは「認定」とする。  
 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。  
 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。  
 4 外部検定試験等による単位認定は、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、一つの授業科目について1回限りとする。

別表第1附表-1 (平成24年度以降入学者適用)

項番	授業科目名	備考
①	経済実用英語 英語(工学部)	・経済学部についてはOT1, OT2及びOT3(500点以上)の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT1(800点以上)の認定対象科目に含める
②	英語(ネイティブ)	・薬学部についてはOT2(650点~795点)の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT2(650点~795点)の認定対象科目に含める
③	英語(オラコン)	OT1 OT2 OT3
④	英語(作文・文法)	
⑤	英語(読解)	
⑥	英語(検定)	

別表第1附表-2 (平成24年度以降入学者適用)

項番	授業科目名
①	英語(MPコース)
②	英語(ネイティブ)
③	英語(オラコン)
④	英語(作文・文法)
⑤	英語(読解)
⑥	英語(検定)

### 単位認定の参考例

- 入学時TOEIC-IPで500点を取得(【英語関係I(OT3)】の合格基準)した後、他のTOEIC(例:カレッジTOEIC)で510点を取得(【英語関係I(OT3)】の合格基準)した場合

当初の認定 TOEIC-IP 500点 …… 英語(オラコン) 認定(2単位)  
 ※【英語関係I】の同レベルでの合格基準ですでに2単位認定済みのため、追加で2単位の認定はしない

- 入学時TOEIC-IPで500点を取得(【英語関係I(OT3)】の合格基準)した後、他のTOEIC(例:カレッジTOEIC)で655点を取得(【英語関係I(OT2)】の合格基準)した場合

当初の認定 TOEIC-IP 500点 …… 英語(オラコン) 認定(2単位)  
 追加の認定 TOEIC-IP 655点 …… 英語(作文・文法) 認定(2単位) 計4単位  
 ※【英語関係I】の単位認定の上限は4単位のため、6単位として認定はしない

別表第 8 (大学間交流協定に基づく語学研修の学修成果に係る取扱い)

語学研修大学名	合格基準	認定科目	認定単位数	備考
南オレゴン大学	南オレゴン大学の成績評価 D (下級) 以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部の定めに委ねる)	2単位	平成11年度以降 入学者に適用
アデレード大学	アデレード大学の成績評価 D以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部の定めに委ねる)	4単位まで	平成11年度以降 入学者に適用
成均館大学校	成均館大学校の成績評価 60点以上			
	①初級1クラス	朝鮮語初級Ⅱ 朝鮮語初級Ⅱ	2単位 2単位	平成11年度～平成15年度 入学者に適用
	②初級2クラス以上	朝鮮語中級 朝鮮語中級	2単位 2単位	
	①初級1クラス	朝鮮語初級Ⅱ (文法) 朝鮮語初級Ⅱ (読本)	2単位 2単位	平成16年度～平成18年度 入学者に適用
	②初級2クラス以上	朝鮮語中級 朝鮮語中級 又は 朝鮮語初級Ⅱ (総合)	2単位 2単位 4単位	
	①初級1クラス	韓国語初級Ⅱ (文法) 韓国語初級Ⅱ (読本)	2単位 2単位	平成19年度以降 入学者に適用
	②初級2クラス以上	韓国語中級 韓国語中級 又は 韓国語初級Ⅱ (総合)	2単位 2単位 4単位	
	上海理工大学	上海理工大学の成績評価 60点以上	中国語中級	2単位

別表第 9 (外部機関に委託して実施する語学研修の学修成果に係る取扱い)

語学研修大学名	合格基準	認定科目	認定単位数	備考
エクセター大学 (INTOエクセター大学)	エクセター大学(INTOエクセター大学)の成績評価 全ての成績評価項目が Satisfactory 以上で、かつ、最終試験結果 が60%以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部の定めに委ねる)	4単位まで	平成11年度以降 入学者に適用

## 6. 単位修得について

### 履修登録について

岡山大学学則、マッチングプログラムコース規則等の単位取得に関する規定に従って、各自がアカデミック・アドバイザー（以下、「A・A」という。）と相談のうえ、履修計画を立て、各年度ごとの授業時間割表・シラバス等により、履修を希望するすべての授業科目を各学期の始めに履修登録します。（他学部開講科目の履修については、授業担当教員の許可を受けること。）履修登録は指定された期間中に学生が大学内のパソコンを操作してコンピュータ登録します。（履修登録のない科目の単位修得は認められません。）

また、履修登録の手続期間以外は、原則として履修科目の変更（追加登録・取り消し）は認められません。集中講義の履修登録については掲示等によりその都度指示します。

なお、他学部で履修する専門教育科目は、マッチングプログラムコースにおける専門科目のどの区分（情報処理関連科目、テーマ関連科目、課題探求科目）になるのかを各自の履修計画に基づき決定しますので、よくA・Aと相談してください。

### 試験（専門教育科目）

- 1 試験の時期・・・ 各授業担当教員の指示によって行われます。
- 2 受験の延期・・・ 病気その他やむを得ない理由で受験できなかった者は、各授業担当教員の判定により追試験を受けられることがあります。
- 3 受験の心得・・・ 受験にあたっては、別に示される受験心得や各授業担当教員の指示に従って受験すること。

※ 教養教育科目については「履修の手引」を参照のこと。

### 単位の修得

授業は、講義、演習、実験、実習のいずれかの方法、またはこれらの二以上の併用により行われます。授業科目の1単位当たりの学修は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準とし、授業内容の方法による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、専門教育科目（1単位）につき、次の基準により単位数が定められています。

授業の種類、方法	授業による学修時間	授業時間外の学修時間
講義	15時間	30時間
演習	15時間又は30時間	30時間又は15時間
実験、実習	30時間又は45時間	15時間又は0時間
課題研究	必要な学修等を考慮して、単位数を定める。	

単位の修得は、授業の2/3以上出席したものにつき、試験、報告書及び平素の成績を考慮して各授業担当教員が判定します。

### 成績の評価

授業科目によっては、「修了」または「認定」を用いて合格の標語とすることがあります。

評語	G P	評価基準（評点）
A+	4	90点～100点（合格）
A	3	80点～89点（合格）
B	2	70点～79点（合格）
C	1	60点～69点（合格）
F	0	0点～59点（不合格として単位を与えません。）
W	対象外	履修登録後において、本学が別に定める履修取消期間内に、履修取消手続きを行った授業科目のため評点はない。

※ 上記G Pから、次の計算式でG P A（グレード・ポイント・アベレージ）が算出されます。これは、学習達成度の目安として使用されることがあります。これは、在学期間を通して集計されますので、「F」を取りますと、大きく下がります。注意してください。

$$G P A = \frac{\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のG P の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の総和}}$$

（小数第3位を四捨五入）



### 成績の通知

履修登録科目の成績は、前期末及び後期末に通知（各自がコンピュータで確認）します。後期末の成績通知については、4年次生は3月上旬頃に、1～3年次生については、3月中旬頃に通知します。

なお、特段の理由のない限り、保護者にも成績が通知されます。

### 他大学等の授業科目の履修について

他大学等の授業科目の履修がMPコースで認められた場合は、履修して修得した単位が本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

他大学の履修科目（例えば、臨海実習など）の履修を希望する者は、所定の手続により履修を申し出ること。

### その他

学生に関係あることは、理学部事務室教務学生担当又はMPコースの掲示板で連絡するので見落とさないよう注意すること。

## 試験における不正行為の取扱い

〔 平成16年5月19日  
教育研究評議会決定 〕  
改正 平成23年 2月16日

- 1 この取扱いは、岡山大学学生に係る懲戒等に関する申合せ第20項の規定に基づき、岡山大学が実施する試験において不正行為を行った学生の取扱いについて定めるものである。
- 2 退学又は停学は、次に掲げる不正行為を行った場合とする。  
退学  
一 代理（替玉）受験をしたり、させた場合  
二 その他特に悪質な不正行為をした場合  
停学  
一 許可されていないノート及び参考書等を参照した場合  
二 答案を交換した場合  
三 その他不正行為を行った場合
- 3 不正行為を行った者には、直ちに解答を止めさせ、試験終了まで当該試験室で待機させる。  
ただし、試験実施上、他の受験者に迷惑を及ぼすと判断される場合は、退室を命じ、試験終了まで、所属学部等の教務担当事務で待機させる。
- 4 不正行為が判明した場合、当該学生の所属する学部長（研究科長）は、当該学生に対し直ちに謹慎を命ずる。
- 5 当該学生が所属する学部（研究科）は、不正行為者の動機、手段等について詳細に調査し、処分の程度を慎重に審議する。
- 6 不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。
- 7 共謀の不正行為にあつては、依頼者及び被依頼者とも原則として同一の処分とする。
- 8 停学期間は、3月を超えるものとし、始期は不正行為のあった日の翌日とする。
- 9 第3項の取扱いは、不正行為を行おうとした場合又は試験室において監督者の注意若しくは指示に従わない場合に準用する。
- 10 前項の場合における当該学生の当該授業科目の単位は認定しない。
- 11 この取扱いは、平成23年4月1日から適用する。

## 《 受 験 心 得 》

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。  
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

## 7. 平成24年度開講科目

### [教養教育科目]

学 年	講義番号	授 業 科 目	期別・単位			履修区分	備 考
			前期	後期	通年		
1	910082	自然科学入門 (MP コース)	2			必修	本年度開講
	913069	英語 (MP コース)	2			必修	
	913147 ～913163	英語 (ネイティブ)		2		2単位 必修	
主題科目 (現代の課題, 人間と社会, 健やかに生きる及び自然と技術), 個別科目, 外国語科目 (初修外国語) については, 選択になっています。 ※ 講義番号は, 必ず教養教育科目のシラバスで確認すること。							

### [専門基礎科目及び専門科目]

学 年	講義番号	授 業 科 目	期別・単位			履修区分	備 考
			前期	後期	通年		
1	120101	MP 個別指導 1			2	必修	本年度開講
	120203	英語 (MP コース 2)			2	必修	本年度開講
2	120102	MP 個別指導 2	1			必修	25年度開講
	120103	MP 個別指導 2		1		必修	25年度開講
	120204	英語 (MP コース 3)			2	必修	25年度開講
3	120104	MP 個別指導 3	1			必修	26年度開講
	120105	MP 個別指導 3		1		必修	26年度開講
1～3		MP 教養ゼミ (日本語)		2		必修	本年度開講
		MP 教養ゼミ (倫理・哲学)	2			必修	26年度開講
		MP 教養ゼミ (異文化)	2			必修	25年度開講
		MP 教養ゼミ (自然科学)	2	2		必修	本年度, 25年度開講
							1～3年次前期まで, 半期に1科目ずつ開講する。講義番号は, 開講科目が決まってからシラバスで確認すること。
1～2	120401	キャリア育成セミナー		2		選択	
4	120701	課題研究			10	必修	

授業科目の詳細は, 必ずシラバスで確認すること。

これ以外の専門教育科目については, アカデミック・アドバイザーと相談しながら, 他学部開講の専門教育科目を履修すること。